

地域支援だより

平成23年11月25日

第18号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

きらりNet

誤嚥しないように… ～「とろみ」について～



秋田きらり支援学校のランチルームでは

「給食」の時間、ランチルームでは、自宅通学生が給食を食べています。そばにいる職員は「今日の野菜スープはおいしいねえ。」などと話しかけながらも、子どもたちが偏食しないように、良くかむように、残さないように、といろいろなことを考えています。また、うまく飲み込めない子どもたちには、「はい、あーん。ゴックン。」と言葉をかけながらスプーンを口に運んでいる職員もいます。みんなほぼ「完食」。毎日の給食を楽しみにしています。

「とろみ」って

秋田きらり支援学校の給食は、普通食のほかに、子どもが食べやすい大きさにカットしたりペースト状にしたりして提供しています。ペースト状の物、みそ汁などの汁やおかゆなどは、「とろみ」をつけています。この「とろみ」は、寒天やゼラチンなどでもつけることができますが、もっと簡単にできる「とろみ補助食品」や「固形化補助食品」と呼ばれている物を使用しています。子どもが飲み込むのにちょうど良くなる物を用意して職員が「とろみ」をつけていることもあります。

「とろみ」とは、誤嚥(食物や水分が誤って気管に入ること)しないように食品を固めることです。ポタージュ状・ヨーグルト状・マヨネーズ状などにすることで、ある程度のまとまりで、しかもややゆっくりとした速さで飲み込むことができますから、誤嚥の危険性が少なくなるわけです。



様々な商品名で市販されている「とろみ」をつける食品ですが、すぐ固まる物や20分くらいで固まる物、唾液でゆるくなる物などそれぞれに特徴が違いますので、いろいろ試してみるのが良いようです。

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

連載 本校の授業・行事の様子から

キーボード演奏の工夫～学習発表会から～

11月3日(木)に本校で初めての学習発表会が行われました。小学部、中学部、高等部それぞれが体育館のステージで日頃の学習の成果を発表しました。今年の発表会の特徴として、どの学部も楽器の演奏を発表内容に取り入れていたことが挙げられます。そこで、今回は、学習発表会の中で実際に使われた、キーボードを演奏する際の支援の工夫について紹介します。

(工夫1)メロディーの1小節に1音を割り当て、(小節の始めの音や、和音など)その音を色で表した楽譜を作成する。(写真1)キーボードの鍵盤にも同じ色の印を付ける。(写真2)楽譜は児童生徒の見やすい位置に置き、さらにスリットの入った板を活用し、今弾いている箇所がすぐわかるようにするとさらに効果的である。(写真3)



(写真1)



(写真2)



(写真3)

(工夫2)段ボール等でくし型の補助板を作成する。この時、くしの幅を使用するキーボードの鍵盤の幅に合わせる。(写真4)それをキーボードの鍵盤に両面テープ等で貼り付ける。(写真5、6)そうすることで、指の力が弱かったり、指先の微細な動きが苦手だったりする児童生徒でも、簡単に和音を弾くことができる。



(写真4)



(写真5)



(写真6)

このような支援の工夫をすることで、より多くの児童生徒がキーボードの演奏に取り組むことができるようになります。今回の本校の学習発表会でも、自信をもってキーボードの演奏を行う児童生徒の姿が多く見られました。

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記までご連絡ください。

教頭 初山 節子 地域支援部 遠藤 美和子

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail : kirari-s@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573

FAX：018(889)8575



次号は12月16日発行予定です。